

1 学校評価の目的

- (1) 本校教職員が自らの教育活動や学校運営の諸事項について目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さなどについて評価することで、学校として組織的・継続的な改善を図る。
- (2) 教職員及び保護者などの学校関係者による評価の実施とその結果の公表・説明を行うことで、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民などからの理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 学校評価の方法

(1) 自己評価

ア 概要

全教職員で、教育目標の達成に向けた取組の適切さや努力点の達成状況などについて評価を行う。また、教職員の自己評価の客観性や信頼性を補完するとともに保護者や児童生徒の意見・要望を把握するために、保護者によるアンケートも実施する。

イ 内容

(ア) 教職員による自己評価

- <内容> ① 令和元年度学校経営における努力点（中期目標・中期計画）
② 各分掌、部・係における具体的取組
③ 学部経営目標と具体的取組（各学部）
④ その他

(イ) 保護者へのアンケート

- <内容> ① 教育活動全般
② 教育環境（人的・物的）
③ PTA活動
④ 児童生徒の様子
⑤ その他

ウ 評価基準

教職員による自己評価、保護者へのアンケートともにA・B・C・Dの4段階評価を用いて行う。その目安は以下のとおりとする。なお、評価の対象は、個々人の取組状況ではなく、学校全体としての取組の状況とする。保護者アンケートについては、前年度から改善された項目などを把握するため、年次比較も合わせて行う。回収率は職員が100%、保護者が98%であった。

A：達成できている。

B：ほぼ達成できている。

C：あまり達成できていない。

D：達成されていない。

3 学校評価結果・考察

I 学校経営努力点

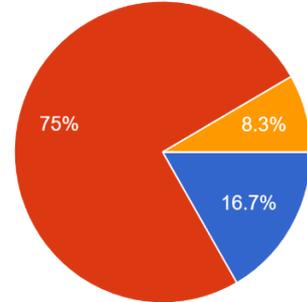
1 評価結果（数字は平均値）

(1) 一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導や必要な支援を充実する。											
<p>ア 個別の教育支援計画及び個別の指導計画のPDCAサイクルを充実し、小中高一貫した教育を具現化するとともに、保護者や関係者との相互理解を深める。</p>	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p>										
	<table border="1"> <caption>Item A Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>D (達成されていない)</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	0%	B (ほぼ達成)	75%	C (あまり達成されていない)	25%	D (達成されていない)	0%
Category	Percentage										
A (達成)	0%										
B (ほぼ達成)	75%										
C (あまり達成されていない)	25%										
D (達成されていない)	0%										
<p>イ 大学・学部と連携し、教育課程の在り方を研究するとともに、全体計画や年間指導計画を深化・発展させる。</p>	<table border="1"> <caption>Item I Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>D (達成されていない)</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	25%	B (ほぼ達成)	62.5%	C (あまり達成されていない)	12.5%	D (達成されていない)	0%
Category	Percentage										
A (達成)	25%										
B (ほぼ達成)	62.5%										
C (あまり達成されていない)	12.5%										
D (達成されていない)	0%										
<p>ウ これまでの成果と課題を基に、ICTを十分活用した実践に努め、事例を蓄積する。（今年度新規）</p>	<table border="1"> <caption>Item U Evaluation Data</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A (達成)</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>B (ほぼ達成)</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>C (あまり達成されていない)</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>D (達成されていない)</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	A (達成)	8.3%	B (ほぼ達成)	62.5%	C (あまり達成されていない)	29.2%	D (達成されていない)	0%
Category	Percentage										
A (達成)	8.3%										
B (ほぼ達成)	62.5%										
C (あまり達成されていない)	29.2%										
D (達成されていない)	0%										

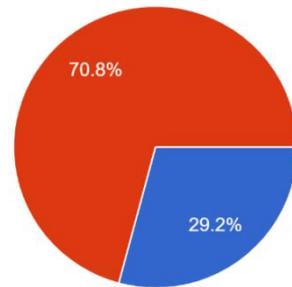
(2) 児童生徒の健康や校内外の安全を確保し、安全指導や生徒指導、保健指導を充実する。

ア 児童生徒の生命を守り育む視点に立ち、一人一人の実態に応じた安全指導や生徒指導、保健指導を徹底する。

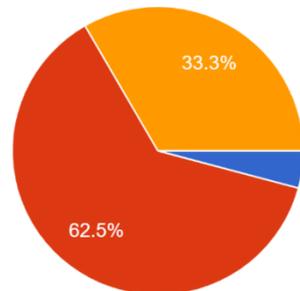
- A : 達成
- B : ほぼ達成
- C : あまり達成されていない
- D : 達成されていない (未取組)



イ 危機管理マニュアルを基に、事故や災害等に関する報告・連絡・相談・確認システムを徹底し、児童生徒の生命・健康を守るための迅速できめ細やかな対応を行う。



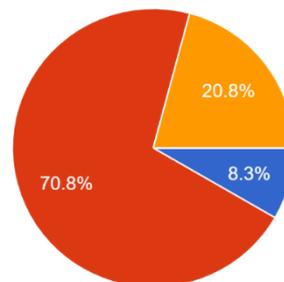
ウ 教育環境の整備を行う。
(昨年度、未実施項目)



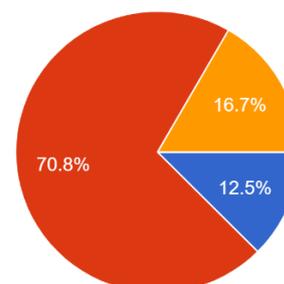
(3) 附属学校の役割や機能を生かし大学との共同研究を深め、専門性や資質の向上を図る

ア 大学・学部の特例支援教育、教科教育等の教員との共同研究や県内外の特例支援教育関係者と連携した研究を推進するとともに、研究推進の効率化を図る。

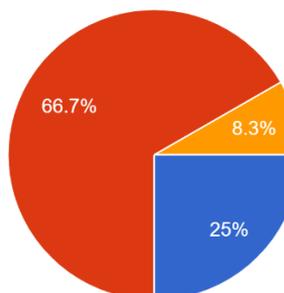
● A：達成
● B：ほぼ達成
● C：あまり達成されていない
● D：達成されていない（未取組）



イ 学校や教師個々の研究テーマに基づいた実践研究により専門性を高めるとともに、教員相互に資質向上に努める。



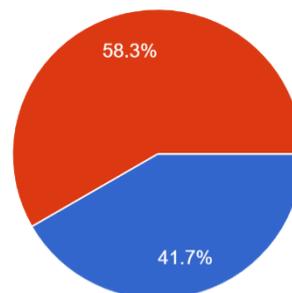
ウ 文部科学省委託事業「特別支援教育に関する実践研究充実事業（次期学習指導要領時に向けた実践研究）の最終年度のまとめを行う。（今年度新規）



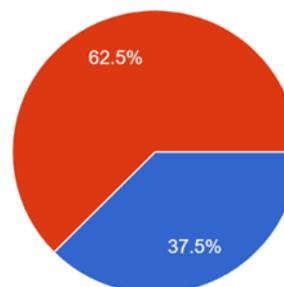
(4) 力量のある教員を養成するため、大学・学部と連携して教育実習の一層の充実を図る。

ア 大学の教員養成カリキュラムの開発と連動しながら、実習生指導の重点を整理し、授業づくりや児童生徒への指導に関する実践力の養成及び指導教員としての指導力の向上に努める。

● A：達成
● B：ほぼ達成
● C：あまり達成されていない
● D：達成されていない（未取組）



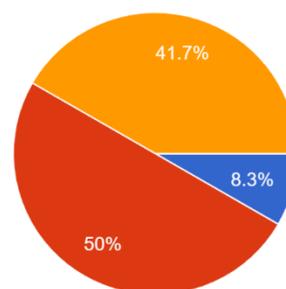
イ 介護等体験，高校免許取得者の実習，採用前実習等の企画・運営及び教職大学院の実習の充実を全校態勢で進める。



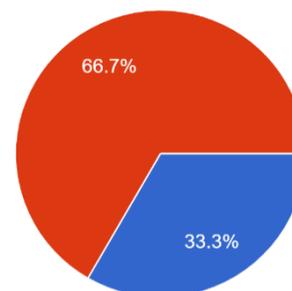
(5) 児童生徒・保護者・地域と共にあり、責任を果たす開かれた学校の創造をめざす

ア 児童生徒の学習環境の向上と附属学校としての責任を果たすため、施設設備、情報機器、教材・教具等の整備・充実を図る。

● A：達成
● B：ほぼ達成
● C：あまり達成されていない
● D：達成されていない（未取組）



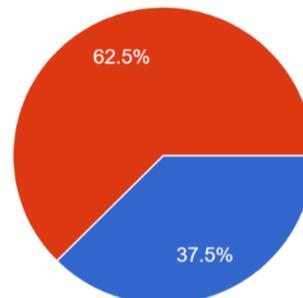
イ 学校見学会や体験学習，ホームページ，広報紙などを通じて学校の機能を広く発信するとともに，児童生徒の余暇活動の充実に向けた積極的な支援を行う。



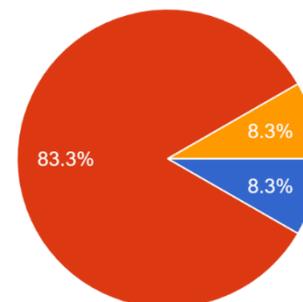
(6) 教育相談等の支援体制の充実を図り、センター的機能を果たすための支援を継続する。

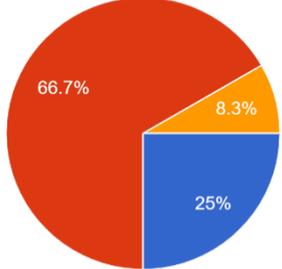
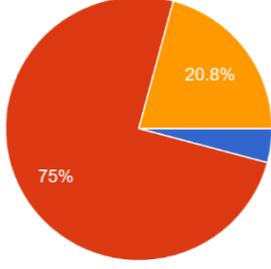
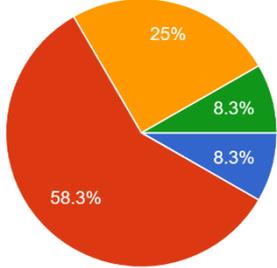
ア 幼稚園，保育所・小・中・高等学校在籍の，特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒の ニーズに応じた支援を行うとともに，就学前教育相談の充実を図る。

- A：達成
- B：ほぼ達成
- C：あまり達成されていない
- D：達成されていない（未取組）



イ 附属学校園特別支援教育推進研究委員会を機能化し，大学・学部・附属学校園の連携を深めるとともに，特別支援教育の一層の推進を図る。



(7) 社会や時代のニーズに応える学校としての責任を果たす。	
ア 時代の要請等を踏まえた研究を深化し、本校ならではの実践研究の成果を、県内外の特別支援教育関係者へ発信する。	<p>● A：達成 ● B：ほぼ達成 ● C：あまり達成されていない ● D：達成されていない（未取組）</p> 
イ 共生社会の実現へ向けた、合理的配慮等の具現化など、本校の使命や役割を検討し、関係機関等と連携・共同しながら実践研究の充実・深化を図る。	
ウ 業務改善に関する事例を蓄積し、その効果や具体的な取組方法等のモデルを発信する	

2 考察（学校経営努力点に関する）

- (1) 個別の教育支援計画と個別の指導計画、全体計画や年間指導計画の深化・発展、ICT活用事例蓄積に関しては、70%～87%の割合で達成及びほぼ達成の評価であった。個別の教育支援計画と個別の指導計画については、カリキュラム・マネジメント推進委員会にて、書式や内容の検討を行っており、今後も継続して実施し、充実した取組になるようにしていく必要がある。ICT活用については、今年度新たに努力点として挙げられた項目であり、約30%の割合で「あまり達成できていない」と評価している。活用実践としては、各教師が取り組んでいることから、事例蓄積方法などを具体的に努力点に示すことで改善できると考える。
- (2) 児童生徒の安全指導・生活指導・保健指導に関しては、達成及びほぼ達成の評価であった。今後も継続して、危機管理マニュアルの整備とヒヤリハット内容など職員間の共通理解を図っていきたい。一方、教育環境の整備については、33%が「あまり達成できていない」という評価をしている。自由記述の内容から教材・教具の整備の充実が考えられるが、予算が削られていく中で、今できることから無駄を省く視点も併せて見ていく必要があると考える。例えば、今教材庫等にある教材・教具の周知（同じ物を購入してはいないか）、在室なしの教室等の電気の消灯、印刷室の用紙の使い方等。
- (3) 実践研究に関しては、三項目とも約80%以上で達成及びほぼ達成の高い評価を得ている。今年度は、特に文部科学省の委託事業であり、改訂学習指導要領に向けた実践研究のまとめとして事業報告会を行った。学部所属の全教員がそれぞれ授業実践をまとめ、ポスター発表を行ったことで、教師相互の資質向上

に努めることができたと考える。今後は、これまでのカリキュラム・マネジメントに関する研究から得た成果と課題をまとめ、次年度以降の研究に迫っていく必要がある。

- (4) 教育実習に関しては、二項目ともに全ての教員が「達成及びほぼ達成」と評価しており、高い評価であった。本校の使命の一つである教育実習校としての役割を十分果たしていると考えられる。今後は、ますますニーズが増えてくると予測される特別支援学校教員免許の取得希望者に応じた教育実習受入体制や教職員大学院実践実習の在り方など、教育学部と連携して取り組んでいく必要がある。
- (5) 学校見学会や体験学習に関しては、全ての教員が達成及びほぼ達成と評価している。今後も、ホームページ等を活用して教育活動等を広く発信していき、地域のニーズに応じていきたい。一方、施設設備、情報機器、教材・教具の整備・充実に関しては、41%が「あまり達成されていない」と評価している。学校経営努力点全18項目の中で一番低い評価となっている。この評価結果は、(2)ーウとも関連があると考えられる。大学予算が削られていく中で、今後も外部資金の獲得など積極的に検討していく必要がある。
- (6) 教育相談等の支援体制の充実に関しては、約90%以上の割合で「達成及びほぼ達成」と高い評価であった。今年度は、附属小学校で特別支援教育に関するスキルアップセミナーを実施することができた。今後も継続して、附属学校園の特別支援教育の充実に向けて、本校がセンター的機能を果たして支援を継続していく必要がある。
- (7) 実践研究の充実・深化と成果を県内外の特別支援教育関係者へ発信することに関しては、80%以上の割合で「達成」及び「ほぼ達成」と評価している。今年度の文部科学省の委託事業の報告会を実施したことと関連して高い評価を得たと考えられる。一方、業務改善に関する事例の蓄積とその具体的な取組方法等のモデル発信に関しては、33%の割合で「あまり達成されていない」及び「達成されていない(未取組)」と評価している。これは、事例蓄積に関してどの分掌が実施しているのか、モデル発信の内容や方法が分かりにくかったことが考えられる。今後は、業務改善内容と方法の提示についてホームページを活用した発信方法等を努力点に具体的に明記しておく必要がある。

II 校務分掌活動

1 評価結果

- A : 達成
- B : ほぼ達成
- C : あまり達成されていない
- D : 達成されていない (未取組)

【総務部】

①教務・教育課程		③交流・人権同和教育	
②教科用図書・公簿		④情報・視聴覚	

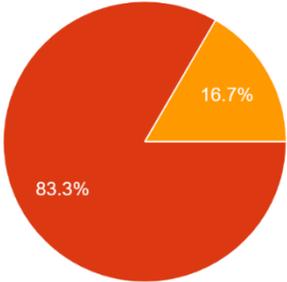
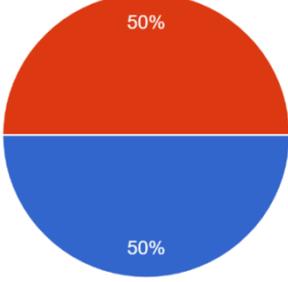
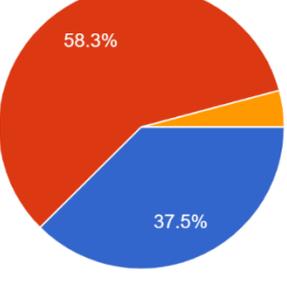
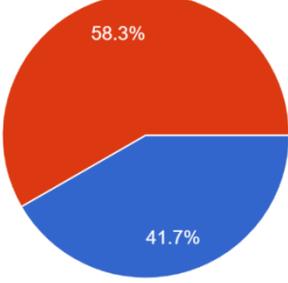
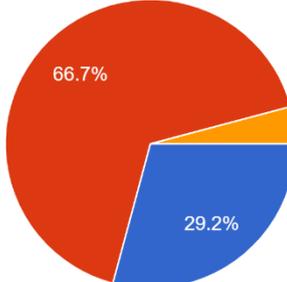
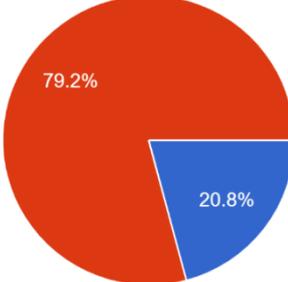
【教育実習部】

教育実習		
------	--	--

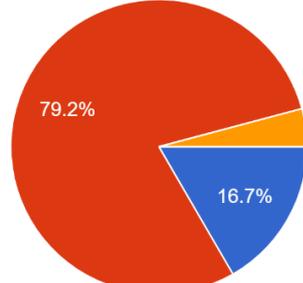
【研究部】

研究 (公開研究) (職員研修)		
------------------------	--	--

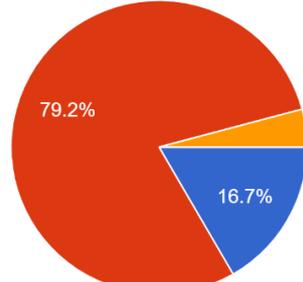
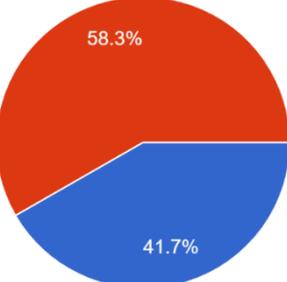
【支援部】

校内支援①		校外支援② 【早期教育相談等】	
校内支援②		校外支援③ 【小中学校等支援・スキルアップセミナー】	
校外支援① 【附属学校園支援】		校外支援④ 【入学選考委員会】	

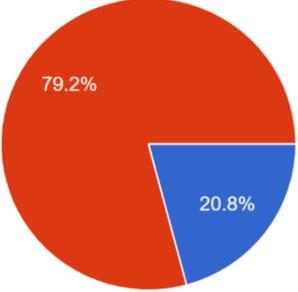
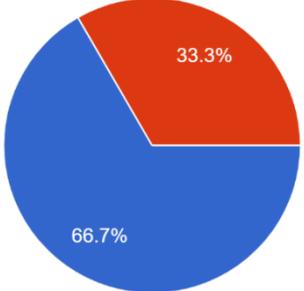
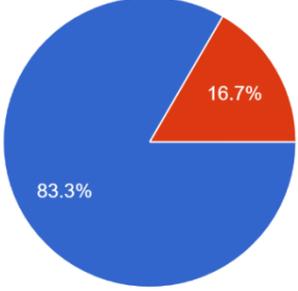
【自立活動部】

自立活動		
------	---	--

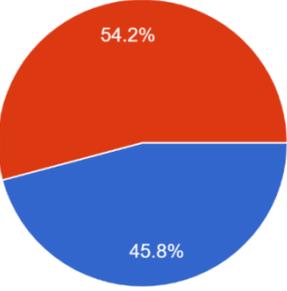
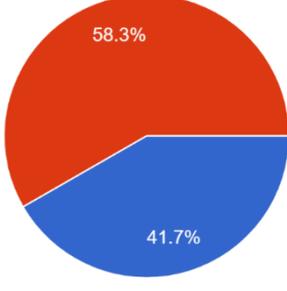
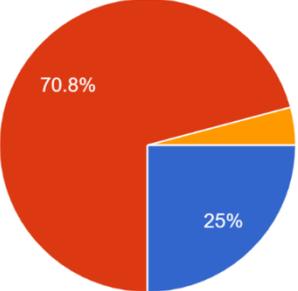
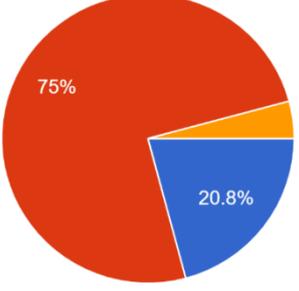
【進路指導部】

進路指導		卒業生支援	
------	---	-------	---

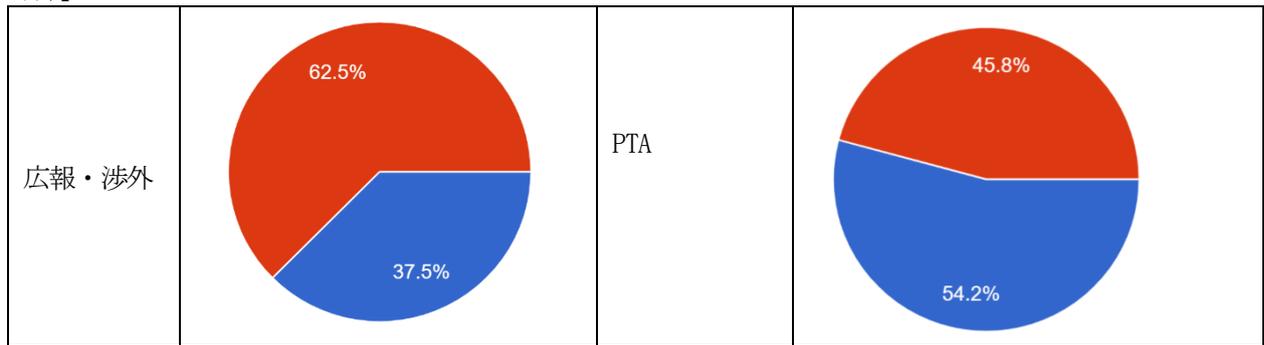
【生徒指導部】

<p>①生活・通学・読書指導</p>		<p>③児童生徒会・HR</p>	
<p>②学校行事</p>			

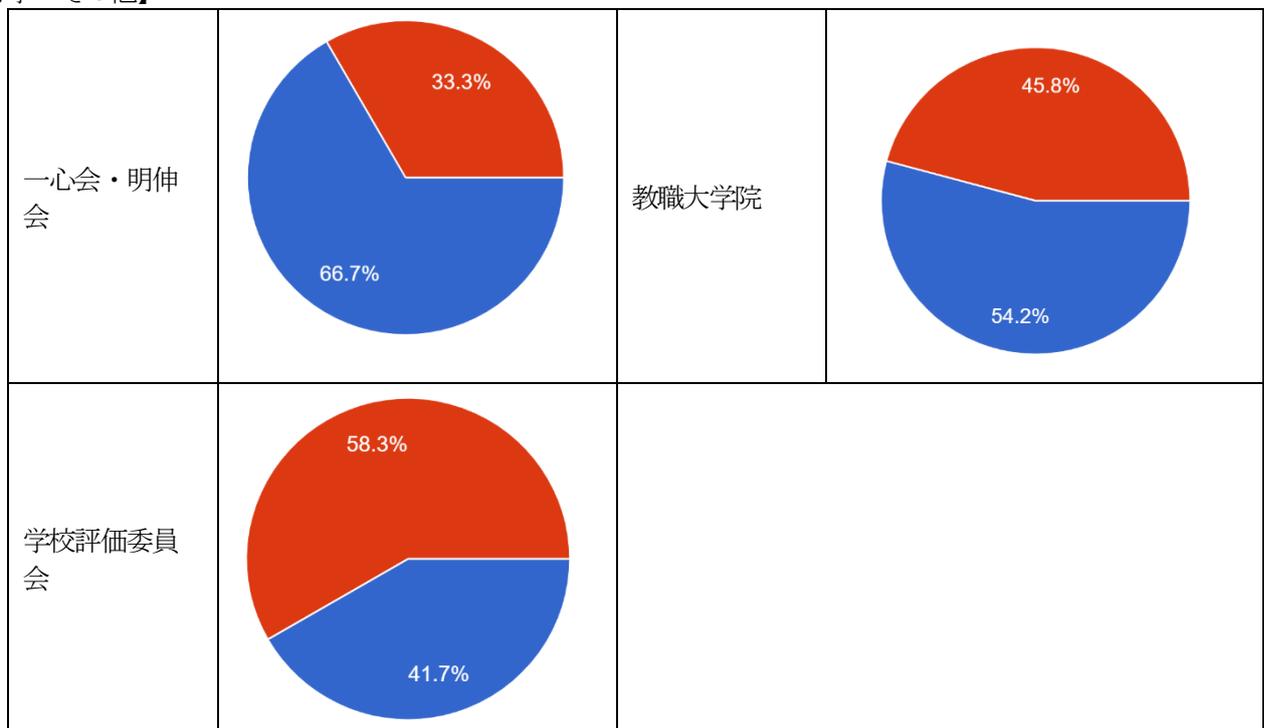
【保健指導部】

<p>①保健・給食指導</p>		<p>③学校安全</p>	
<p>②体育指導</p>		<p>④環境整備</p>	

【渉外部】



【分掌・その他】



2 考察（校務分掌活動に関する）

- (1) 総務部の四つの分掌いずれにおいても、ほぼ、「達成」、「ほぼ達成」の評価を得ている。各会議等の精選、会議の設定時間のスケジュール調整などの計画的・効率的に実施されている。カリキュラム・マネジメント推進委員会の議題内容を委員以外の職員に周知する機会を計画的に設定しておくことで、全校的にカリキュラム・マネジメントの構築に早めに全教員が共通理解して取り組むことができると考える。
- (2) 教育実習部について、全教員が「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。学校経営努力点（4）の附属学校の使命の一つである教育実習の充実に関する評価とほぼ同じ結果であり、関連があると考え。今後、ニーズが増えてくると予測される特別支援学校教員免許の取得希望者に応じた教育実習受入体制や教職員大学院実践実習の在り方など考慮していく必要があると考える。
- (3) 研究部について、約95%の高い割合で「達成」、「ほぼ達成」と高く評価している。今年度は、特に文部科学省の委託事業の新学習指導要領に向けた実践研究のまとめとして事業報告会を行った。今後は、次年度以降の学校研究のテーマ設定を見据え、早い段階から課題の集約を行い、次年度以降の研究を計画的に進めていく必要があると考える。
- (4) 支援部では、校内支援、校外支援ともに90%以上の高い割合で「達成」、「ほぼ達成」と評価している。

しかし、校内支援の業務の中の個別の教育支援計画・個別の指導計画に関しては、約 17%の割合で「あまり達成されていない」と評価している。これは、個別の教育支援計画と個別の指導計画の内容検討が現在進行していることと関連していることが考えられる。特に、新学習指導要領を考慮し、学習評価の観点と照らし合わせると、現在の個別の指導計画の内容の検討が必要であることを感じている教員も多く、カリキュラム・マネジメント推進委員会でも議題となっているところであり、全職員で検討する必要がある。自由記述であったように、過去3か年の受検者数を考慮すると、中学部と高等部の入学希望者を増やすことが課題として挙げられる。早期教育相談事業における体験学習が小学部受検者の確保につながっている実績を基に、学校見学会の工夫や、夏季休業中のオープンキャンパスのような催しを実施するなど新規の取組について、他の分掌部と連携を取りながら検討することが必要である。

- (5) **自立活動部**では、約 96%の割合で達成、ほぼ達成と評価している。少数ではあるが、課題として、自由記述に、抽出指導の指導内容とその変容に関することと発達検査の実施に関することが挙げられている。夏季休業中に実施される自立活動に関する研修等の内容に抽出指導の実践発表を行うなど工夫ができると考える。新版K式発達検査に関しては、検査とカンファレンスの実施自体が目的になってしまわないよう、再度なぜ新版K式を本校が活用しているのか、保護者への検査結果の報告の仕方など押さえておく必要がある。
- (6) **進路指導部**については、進路指導と卒業生支援いずれも高い評価を得ている。卒業生支援については、卒業生クラブとして、卒業後3年間までの卒業生の余暇活動の充実に向けて、2か月に1回程度活動を企画・実施している。全教員が分担して活動支援に当たっている。
- (7) **生徒指導部**では、生活・読書指導、学校行事、児童生徒会のいずれも高い評価を得ている。図書室の蔵書の廃棄や書棚の新設など図書室運営の検討が必要であるが、今後も継続して児童の読書指導の充実に当たっていききたい。
- (8) **保健指導部**については、約 95%以上の割合で「達成」、「ほぼ達成」の高い評価であった。少数ではあるが、あまり達成されていないとして挙がっていた課題は、屋外の体育倉庫の整備に関する内容である。年度途中で大学の予算が付いたことで、今後体育倉庫の整備改善が進む予定で、改善できる内容である。
- (9) **渉外部**では、高い評価を得ているが、自由記述では、FSC（ふとくスポーツクラブ）の学校としての参画・支援の在り方に関する課題・検討が挙げられている。昨今の放課後の活動の場の多様化や個々のニーズに応じたサービスの利用充実なども影響してきており、昨年度参加者の減少により、卒業生クラブ「WA!!」（水曜日に本校で活動）の活動が中止になり、週2回のFSC（風船バレーボールとダンス）だけの活動に絞られた。発表の応援や参観について、一部の職員に負担のないように年度当初にボランティアを募り分担して行っている。次年度もこの方針を継続していく方向性である。

Ⅲ その他

1 評価結果

質問項目		結果			
		1 思う	2 まあまあ思う	3 あまり思わない	4 思わない
1 学校全体	ア 職員会議は計画的に実施され、適切な審議がなされている。	16 (66.7%)	8 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)
	イ 運営委員会では、必要な事項が十分に審議されている。 (運営対象者のみ)	12 (70.6%)	5 (29.4%)	0 (0%)	0 (0%)
	ウ カリ・マネ委員会では、必要な事項が十分に審議されている。(対象者のみ)	5 (41.7%)	7 (58.3%)	0 (0%)	0 (0%)
	エ 自分にとって校務上必要な情報が適切に伝達されている。	14 (58.3%)	8 (33.3%)	2 (8.3%)	0 (0%)
	オ 学校行事(年間、月)は、適切に組まれている。	14 (58.3%)	8 (33.3%)	2 (8.3%)	0 (0%)

	<p>カ 学校の教育目標や重点目標について、具体的に説明できる。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Rating</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>18</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Rating	Count	Percentage	1	3	12.5%	2	18	75%	3	3	12.5%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	3	12.5%															
2	18	75%															
3	3	12.5%															
4	0	0%															
	<p>キ 学校の年間指導計画を活用して、計画的に指導や支援の充実を図っている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Rating</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>13</td> <td>54.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11</td> <td>45.8%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Rating	Count	Percentage	1	13	54.2%	2	11	45.8%	3	0	0%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	13	54.2%															
2	11	45.8%															
3	0	0%															
4	0	0%															
	<p>ク 学校の教育課程全体で、組織的に児童生徒を育てていくように意識している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Rating</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>12</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11</td> <td>45.8%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Rating	Count	Percentage	1	12	50%	2	11	45.8%	3	1	4.2%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	12	50%															
2	11	45.8%															
3	1	4.2%															
4	0	0%															
	<p>ケ 目指す教育活動のためには、ときには厳しい相互批評もいとわず議論するようにしている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Rating</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>20.8%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>13</td> <td>54.2%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5</td> <td>20.8%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Rating	Count	Percentage	1	5	20.8%	2	13	54.2%	3	5	20.8%	4	1	4.2%
Rating	Count	Percentage															
1	5	20.8%															
2	13	54.2%															
3	5	20.8%															
4	1	4.2%															
<p>2 学部・学級</p>	<p>ア 学部会は計画的に実施され、学部の運営は、工夫・改善されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Rating</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>14</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10</td> <td>41.7%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Rating	Count	Percentage	1	14	58.3%	2	10	41.7%	3	0	0%	4	0	0%
Rating	Count	Percentage															
1	14	58.3%															
2	10	41.7%															
3	0	0%															
4	0	0%															

	<p>イ 学部内の仕事が公平（能力的・経験的）に分担されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>15</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	8	33.3%	2	15	62.5%	3	1	4.2%	4	0	0%
Category	Count	Percentage															
1	8	33.3%															
2	15	62.5%															
3	1	4.2%															
4	0	0%															
	<p>ウ 学級のペア間で情報の連携が適切に行えている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>15</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	15	62.5%	2	9	37.5%	3	0	0%	4	0	0%
Category	Count	Percentage															
1	15	62.5%															
2	9	37.5%															
3	0	0%															
4	0	0%															
	<p>エ 学級事務等は公平（能力的・経験的）に分担されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>9</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>15</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	9	37.5%	2	15	62.5%	3	0	0%	4	0	0%
Category	Count	Percentage															
1	9	37.5%															
2	15	62.5%															
3	0	0%															
4	0	0%															
	<p>オ 学級経営に係る仕事は工夫されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>17</td> <td>70.8%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	6	25%	2	17	70.8%	3	1	4.2%	4	0	0%
Category	Count	Percentage															
1	6	25%															
2	17	70.8%															
3	1	4.2%															
4	0	0%															
	<p>カ 同僚と共に、児童生徒の成長を伝え合い、喜びを共有している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>17</td> <td>70.8%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	17	70.8%	2	7	29.2%	3	0	0%	4	0	0%
Category	Count	Percentage															
1	17	70.8%															
2	7	29.2%															
3	0	0%															
4	0	0%															
<p>3 授業</p>	<p>ア 授業ミーティングは効果的に活用されている。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>7</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>14</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	7	29.2%	2	14	58.3%	3	3	12.5%	4	0	0%
Category	Count	Percentage															
1	7	29.2%															
2	14	58.3%															
3	3	12.5%															
4	0	0%															

	イ 組織的に取り組む授業研究は、学校の課題解決に役立っている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>13</td> <td>54.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>9</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	13	54.2%	2	9	37.5%	3	2	8.3%	4	0	0%
	Category	Count	Percentage														
1	13	54.2%															
2	9	37.5%															
3	2	8.3%															
4	0	0%															
ウ 思考力・判断力・表現力などの評価や実施に取り組んでいる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>19</td> <td>79.2%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	1	4.2%	2	19	79.2%	3	3	12.5%	4	1	4.2%	
Category	Count	Percentage															
1	1	4.2%															
2	19	79.2%															
3	3	12.5%															
4	1	4.2%															
4 個人	ア 個人でテーマを持ち研究を進めている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7</td> <td>29.2%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>12</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	4	16.7%	2	7	29.2%	3	12	50%	4	1	4.2%
	Category	Count	Percentage														
	1	4	16.7%														
	2	7	29.2%														
3	12	50%															
4	1	4.2%															
イ 担当している部や係などの仕事は負担なく取り組んでいる。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>19</td> <td>79.2%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>16.7%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	1	4.2%	2	19	79.2%	3	4	16.7%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage															
1	1	4.2%															
2	19	79.2%															
3	4	16.7%															
4	0	0%															
ウ 学習指導要領改訂など、教育施策の動向に関心をよせ、学ぶようにしている。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>15</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>12.5%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	6	25%	2	15	62.5%	3	3	12.5%	4	0	0%	
Category	Count	Percentage															
1	6	25%															
2	15	62.5%															
3	3	12.5%															
4	0	0%															
エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5</td> <td>20.8%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>16</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1</td> <td>4.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Count	Percentage	1	5	20.8%	2	16	66.7%	3	2	8.3%	4	1	4.2%	
Category	Count	Percentage															
1	5	20.8%															
2	16	66.7%															
3	2	8.3%															
4	1	4.2%															

2 考察（学校全体、学部、個人に関する）

（1）学校全体に関する質問項目について

9項目中8項目において、「思う」「まあまあ思う」と評価している職員が90%以上であった。約20%の職員が「あまり思わない」又は「思わない」と評価している項目は、「ケ 目指す教育のためには、ときには厳しい相互批評もいとわず議論するようにしている」である。自由記述からその背景を探ることは難しかったが、どの場面のどのような議論を指してそれぞれの教員が評価しているのか、分かりにくい評価項目内容となっていることも推測される。本校が継続的に取り組んできている授業研究会や授業ミーティングを今後も継続的に取り組んでいきたいという自由記述から、例えば、「授業研究会や授業ミーティング」というように議論の場面を想定しやすい表記にすることで評価もしやすい項目になると考える。また、実際に議論する場合に何を議論するか進め方やルールを事前に明確にしておくことで、教員間で学び合うことのできる議論につながるのではないかと考える。

（2）学部・学級に関する質問項目について

6項目全ての評価項目において、約95%の割合で「思う」「まあまあ思う」と評価している。それぞれの学部内、学級内での取組は、教員が互いに協力し合い、複数の教員で児童生徒の教育を行うチームティーチングのよさが学部・学級運営にも生かされていると考える。

（3）授業に関する質問項目について

3項目において、職員の評価にばらつきが見られた。特に、「ウ 思考力・判断力・表現力などの評価や実施に取り組んでいる」の項目は、「思う」が1人（4%）、「まあまあ思う」が19人（79.2%）、「あまり思わない」が3人（12.5%）、「思わない」が1人（4%）であった。新学習指導要領で示された資質・能力の三つの柱の一つである「思考力、判断力、表現力」に沿った観点別の評価など、今後の取組として学習評価は重要な検討事項であるとする。現在、個別の指導計画の再考に関し、カリキュラム・マネジメント推進委員会を中心に進めているところであり、今後、学校全体として取り組み、学習評価の視点も検討する中で、評価や実施に対する職員の実感がなされるのではないかと考える。

（4）個人に関する質問項目について

全評価項目22項目の中で、唯一「あまり思わない」「思わない」の評価が約54%の割合であった項目が、「ア 個人でテーマを持ち研究を進めている」であった。今年度実施した文部科学省研究委託事業の報告会では、学部所属の全教員が授業実践のポスター発表を行った。授業実践レベルの研究であれば、ポスター発表にまとめた各自の授業実践は、各個人がテーマをもち研究を進めたと考えるが、職員間ではそういう評価ではないようである。かつてのように、個人の研究テーマを一覧にまとめて提示し、それぞれの教員が常に意識して個人研究に取り組むことができるようにしておくことも一つの方法である。附属学校の各教員は、実践と研究を推進できる人材であることを踏まえると、各個人で深めたい研究テーマも大事にしたいと考える。

「エ 立場や役割に応じて、リーダーシップを発揮している」は、「思う」が5人（20.8%）、「まあまあ思う」が16人（66.7%）、「あまり思わない」が2人（8.3%）、「思わない」が1人（4.2%）であり、評価のばらつきが見られた。本校が地域のニーズに応え続けるためには、様々な立場でリーダーシップを発揮できるような人材育成が必要である。

IV 保護者アンケート

1 評価結果

※4件法（A:達成, B:ほぼ達成, C:あまり達成されていない, D:達成されていない）でアンケートを実施し, Aから順に4点, 3点, 2点, 1点と得点化し, それぞれ平均値を算出した。

	質問項目	全体平均		
		H29	H30	R1
教育活動	① 学校・学部・学級の教育方針や教育目標に添った取組がなされている。	3.7	3.6	3.7
	② 子どもたちの実態や課題に応じた授業が行われている。	3.6	3.7	3.6
	③ 子どもたちに応じた特色ある学校・学部行事が行われている。	3.7	3.7	3.7
	④ 連絡帳や学級通信等は, 学校や授業での取組をよく伝えてある。	3.8	3.7	3.8
	⑤ 通知表「あゆみ」は見やすく, 子どもの成長や課題をよく伝えてある。	3.8	3.6	3.7
	⑥ 個別の教育支援計画による教育方針は, 分かりやすい。	3.7	3.6	3.6
	⑦ 個別の指導計画による具体的な取組は, 分かりやすい。	3.7	3.7	3.5
	⑧ 教師は, 子どもをよく理解し, 真剣に対応している。	3.7	3.8	3.8
	⑨ 教師は, 保護者の悩みや相談に親身に対応している。	3.7	3.6	3.8
	⑩ 教師の対応は, 丁寧で適切である（子どもとの関わりなど）。	3.8	3.8	3.8
教育環境	⑪ 充実した教育活動を行う施設や設備が整っている。	3.2	3.0	3.0
	⑫ 校舎や教室などの清掃や片付けが行き届いている。	3.4	3.4	3.2
	⑬ 危険箇所などへの対応, 安全配慮がなされている。	3.5	3.4	3.2
連携	⑭ 学校は, 家庭と子どもの目標に協力して取り組んでいる。	3.6	3.6	3.6
	⑮ 学校は, 家庭と日常的に連絡を取り合っている。	3.7	3.7	3.6
	⑯ 学校は, 保護者の研修に対して協力を行っている。	3.6	3.7	3.6
	⑰ 学校は, 地域や関係機関との連携を十分にとっている。	3.5	3.5	3.5

その他	⑱ PTA活動は、PTA会員の意思を反映し、計画的に行われている。	3.4	3.5	3.2
	⑲ 子どもは、毎日楽しく登校している。	3.8	3.8	3.8
	⑳ 子どもの成長を感じている。	3.8	3.8	3.7

2 考察（保護者アンケートに関する）

- (1) 教育活動においては全ての項目において、4点満点の平均 3.5～3.7 以上の高い評価を得ている。「⑦個別の指導計画による具体的な取組は分かりやすい」の項目は、3.5 となっている。過去3か年と比較して今年度は、0.2 ポイント下がっている。「個別の指導計画」に関しては、次年度に向けて書式や内容の改訂を進めており、保護者にも分かりやすい内容にしていくことが大事である。
- (2) 教育環境においては、全体の中で比較すると低い評価となっている。今年度、経営戦略経費等の予算が付いたことで、改善できそうなこと、改善できたことに関しては、今後、保護者に何が変わるのか、何が変わったか具体的に発信していくことで、保護者の理解をいただきながら児童生徒の教育にあたることができると考える。
- (3) 連携においては、学校と家庭や地域との連携は、4点満点中平均 3.5 以上の評価を得ている。今後も地域や学校連携をとり進めていく必要がある。
- (4) その他に関しては、「⑱PTA 活動は、PTA 会員の意思を反映し、計画的に行われている」が昨年度と比較して-0.3 であった。改善点として、自由記述欄から推測すると、PTA 活動のスリム化等が考えられるが、PTA 執行部を中心に毎年工夫しながら、誰もが参加しやすい活動内容に努めているところである。
 今後も保護者の意見を真摯に受けとめ、改善できることは改善し、連携取りながら児童生徒の教育に当たっていきたい。